

2022年度「広報事業担当者のための課題解決・実践オンライン研修」実施報告書

特定非営利活動法人全国女性会館協議会 御中
 下記のとおり、報告いたします。

報告日 2022 年 11 月 10 日

1 施設概要

施設名	とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ	
代表者名・職名	理事長 中林 潔	
住所	(〒560-0026) 大阪府豊中市玉井町 1-1-1-501	
	電話：06-6844-9735	FAX：06-6844-9706
担当者名・職名	主担当 事業グループ 石原 亨子	
	E-mail：step-9735@toyonaka-step.jp	

2 事業の概要

事業名	情報事業・広報事業担当者のための課題解決・実践研修
趣旨、ねらい	①男女共同参画センターとしての広報事業の基本的な考え方を学ぶ ②情報誌（紙媒体）について、市民が関心を持つ切り口やテーマ設定、コンテンツの作成の考え方を学ぶ ③SNS でジェンダー視点を盛り込んだ投稿を拡散させるための下地作りや発信のノウハウを学ぶ ④他センターや他機関の広報担当者とアイデアの交換を行い、課題の解決を図る
対象者と定員	男女共同参画センターの広報担当者 行政の男女共同参画担当者などテーマに関心がある方
実施日	2022年9月27日（火）10:00～16:00
プログラム概要と 実参加者数	◇オリエンテーション（10:00～10:10） ◇プログラム①「センターの広報のあり方とは」（10:10～11:10） 講師：坂田 静香（全国女性会館協議会） ・広報としての情報発信と啓発としての情報発信 ・情報誌（広報誌）をセンターで作成することの意味 ◇個人ワーク「坂田事務局長の話を聞いてできていると思ったこと」 グループワーク「課題だと感じていること」・発表（11:10～11:40） ◇課題に対する助言等（11:40～11:45） ◇プログラム②「魅力的な情報誌・広報誌をつくる」（12:45～13:30） 講師：樫田 那美紀（公益財団法人 京都市男女共同参画推進協会） 講師：金 涼子（公益財団法人 横浜市男女共同参画推進協会） ・センターでの広報誌／情報誌の位置づけ ・作成過程（誰が作成しているか、テーマの決め方など） ・対象をどのように設定しているか、どのように配布しているか ・発効後の波及効果、反応 ◇グループワーク「ここをもっと知りたいこと」・発表（13:30～13:45）

	<p>◇みんなの「もっと知りたい」に対するこたえ（13:55～14:10）</p> <p>◇プログラム③「SNSで広げるわたしたちの活動」（14:20～15:20） 講師：能條 桃子（一般社団法人NO YOUTH NO JAPAN 代表理事）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的な課題を広げるためにどのようにSNSやネットを活用しているか ・ハッシュタグの活用、投稿のタイミング、反響があったあとのアクション、マイナスの反応への対応と対策 ・SNSやネットを活用するうえで感じているメリット、デメリット ・人をどのように巻き込んでいくか、どのように繋がり、関係を継続しているか <p>◇グループワーク「こんな情報をこんな手段で発信したい」・発表（15:20～15:45）</p> <p>◇質疑応答（15:45～15:55）</p> <p>◇坂田事務局講評</p> <p>◇まとめ（16:00）</p>
アンケート結果の概要	別紙参照
担当者所感	<ul style="list-style-type: none"> ・応募するにあたり情報担当者として感じていた課題や現状を振り返り、改めて考えることができる良い機会となりました。 ・応募した時は、SNSの効果的な活用方法や情報誌のクオリティの高め方などノウハウを学べたら良いと考えていました。しかし、プログラムの流れを、はじめに男女センターの情報事業・広報事業のベースとなる部分を学び、実際に先進的な情報誌を発行している男女センターの職員による講義、社会的な課題に取り組むインフルエンサーからSNSで反響を呼ぶための仕組みづくりや発信内容に関する講義としたことで、基礎から活用までをしっかりと理解することができる研修プログラムとすることができました。 ・10時～16時までの長時間の研修であるにもかかわらず、もっと話を聞きたい、もっとワークで理解を深めたいなど参加者の意欲が感じられました。また、アンケートの結果から、研修を通じて取り組んでみたいことが明確になったと思われれます。しかし、講義時間、ワークの時間、発表して共有する時間の配分が難しいと感じました。 ・オンラインでの研修であることから、全国からたくさんの方に参加していただき多くの人と関わることができました。講師についても場所を気にすることなく、会いたい人に聞いてみたいことを聞く機会を得ることができ、主催者としての大きなメリットを感じました。 ・研修全体の運営としては、オンラインサポート担当を置くことで、当日はアクシデントもなくスムーズに運営・対応することができました。全国女性会館協議会との共催により、研修内容についても何度も打合せの機会をいただいたことで企画がブラッシュアップされていくことを体感し、大きな学びと経験を得ることができました。